会報 全特協

特別支援学級等におけるGIGAスクール構想の推進に向けて

全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会
会長　喜多　好一

感染症対策を講じた学校生活が昨年度から続き、およそ一年半過ぎようとしています。８月から９月にかけて全国を襲った第５波が収まり、少しずつがですが日常を取り戻しつつあります。会員の皆様の学校におかれましては、設置する特別支援学級、通級指導教室に在籍する子供たちの不安解消に努めながら、タブレット端末を活用しつつ、個々の自立に向けた学びを止めない取組に腐心されていることと存じます。

さて、with コロナが続く中ではありますが、先月、文部科学省からのヒアリング資料として、GIGAスクール構想に係る全国調査と合わせて特別支援学級等における一人一台環境におけるタブレット端末の利活用等に係る調査を各ブロックで調査をさせていただきました。以下、文科省主催「GIGAスクール構想に基づく１人１台端末の円滑な利活用に関する調査協力者会議」で報告した概要です。

タブレット端末の活用

□提示ツール…実物の静止画や動画など、視覚的な情報の提示
□記録ツール…メモや撮影の記録を保存
□検索ツール…必要な情報を得るために調べる
□発表ツール…プレゼンテーションの作成
□共有ツール…複数の資料を共有して交流、オンライン機能
□アプリによる支援ツール
…漢字、書き順、計算等の学習アプリ、生活支援アプリ

特別支援学級における利活用の事例

□提示・記録ツール
・図工の作品を作る際、カメラで撮影した写真にコメント、絵を書き入れた。
・自立活動の時間に体の動きを動画に撮り、確認をした。
・ビデオ機能を使い、漢字の撮影をし、それを拡大して線やはねなどを確認した。
□共有ツール
・野菜作りの動画を撮り、全校朝会で紹介した。
・不登校、病弱のこどもとのオンライン朝の会、授業を実施した。
・交流学級に行けない時に交流学級と特別学級を Google Meet でつないだ。
□アプリによる支援ツール
・音楽アプリによりピアノやギターの楽器を弾く練習、キーボード練習をした。
・数の合成分解をゲーム感覚でできるスクラッチのソフトを活用した。

タブレットの整備状況に地域によって差はありましたが、先進的に取り組まれている学校からは、知的障害や発達障害等それぞれの障害特性や学級の実態に応じたタブレット端末の有効活用に向けて試行錯誤しながら、効果的な実践を積み上げられていることがうかがえました。

また、GIGA スクール構想の成果と課題と合わせて、特別支援学級等における一人一台端末の今後の利活用に向けて、次のような提言も届けましたので紹介いたします。

・全ての特別支援学級児童が使用できる一人１台端末の配布
・全ての特別支援学級、通級指導教室にネットワーク回線の整備
・専門家等の人的支援(ICT 支援員など)の増員
・どのタブレットでも無料で安全にダウンロードできるアプリの開発
・学習者用、指導者用デジタル教科書の配布
・タブレットを生かす周辺機器の整備
・タブレットを活用した実践事例集とのデータベースの充実

GIGA スクール構想がスタートして間もないことから、自治体により、特別支援学級等の環境や支援体制などのハード面の整備に差が生じている現状が浮き彫りになりました。この提言の他に、子供たちがタブレット端末を家庭に持ち帰って活用することへの不安、情報モラルに関わる問題等、障害特性に起因する課題もあり、自治体や学校現場で対応が迫られていることも把握できました。（資料の詳細は、本協会 HP にアップしてありますので御参照ください。）

課題は山積していますが、一人一台環境の実現は、個々の教育的ニーズに応じた適切な指導・支援の実施及びに合理的配慮の提供の充実、進展に向けて力強い後押しになります。今後も会員の皆様と共に、GIGA スクール構想の進捗を注視していきたいと考えています。どうか、よろしくお願いいたします。

第２回全国副会長研修会（オンライン）報告

令和３年９月14日(火) 14時00分～16時00分

１　開会の言葉　全国副会長　猪股　嘉洋

オリンピック、パラリンピックでは、多様性と調和がテーマとなった。本日の研修も多様性と調和につながる報告がなされると期待する。

２　会 長 挨 拶　会長　喜多　好一

コロナ感染予防のためのオンライン開催、１月末の全国理事研究研修協議会もオンライン開催とする。本会の資料作成に感謝する。情報交流、講話から学び充実した時間を過ごしていただきたい。

３　来 賓 挨 拶　文部科学省初等中等教育局特別支援教育課課長　山田　泰造　様

特別支援教育への尽力に感謝する。今年度６月に教育支援資料の改訂を行い、「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」を公表した。障害のある子供の就学相談や学びの場の検討等の際に活用してほしい。通常の学級に在籍している特別な教育的支援を必要とする子供の実態調査を行う予定。今回は、高等学校についての調査を検討している。現場の声をよく聞き、子供たちのためになるよう進めてまいりたい。

４　議事－各ブロックの活動及び課題についての報告－

（１）各ブロックの活動について（略）

（２）「新しい時代の特別支援教育の在り方」有識者会議の報告書への意見等について

①　就学相談や学びの場の検討等を支援する教育支援資料の内容の充実

幼児教育施設には公立学校とは異なる所管機関があり連携に課題があること、早期の教育相談や乳幼児健診の情報が園・学校に引き継がれる仕組みや、幼保小連携、保護者との就学相談の定期的な実施が必要なこと、就学相談や学びの場の検討等を支援する体制整備のための支援が必要なこと、医療的ケアを必要とする児童生徒の進学に係る各種保障の充実が必要なこと等が出された。

②　文部科学省著教科書（知的障害者用）の作成

従来の個に応じた教科書と併用することでより効果的な学びにつながるため、デジタル教科書等と併せての整備が必要なこと等が出された。

③　全ての教師に関わる問題として、特別支援教育にかかる資質を教員育成指標に位置付ける

特別支援学級、通級による指導の担当教員の専門性低下が課題であり、研修・育成指標の平準化・専門員の増員など、質と量の確保に向けた教育制度の改善を急ぐ必要があること等が報告された。

④　小学校等教職課程における特別支援学校教職課程の一部単位を修得することの推奨

大学の教員養成機関で特別支援教育に関する内容を学ぶことは通常の学級でも有効であること、免許の校種を問わず、特別支援教育に係る単位の更なる修得が課題解決の方策となること等が報告された。

（３）特別支援教育の学級編成基準の引き下げについて

児童生徒の障害の多様化が進んでいることから、学級編成基準５人以下への要望が多数を占めた。また、基準引き下げによる教員確保等人的措置や、学級数の増加に対応した施設設備の不足解消を併せて検討すること、さらに、複式学級の増加を踏まえ全児童生徒数ではなく、２学年単位での定数などの検討、交流及び共同学習の時間増に対応するための通常学級定員に特別支援学級在籍児童数も含めた編成等の意見も出された。

（４）国立特別支援教育総合研究所からの調査結果

①　特別支援教育の充実を図るためブロック内で行っている（行った）取組で扱われた課題

「多様なニーズのある児童生徒等の指導・支援の充実を図る取組」が最も多く、次いで「インクルーシブ教育システム構築に関する理解啓発に関すること」「関係機関の連携強化による切れ目のない支援に関すること」「校内支援体制の充実に関すること」「ＩＣＴ利活用等による特別支援教育の質の向上に関すること」である。その他、幼保教員の発達段階に応じた指導への理解深化と就学時の適切な引継ぎにつなげる幼保小連携による授業公開交流事業等について報告があった。

② 今後、特別支援教育の充実を図るためにブロック内で取り組みたい主な課題

「関係機関の連携強化による切れ目のない支援に関すること」「ICT利活用等による特別支援教育の質の向上に関すること」が最も多い結果となった。

③ ブロックでの「特別支援教育普及セミナー」に期待する内容

就労支援へのつなぎ、キャリア教育、ICT活用等が報告された。併せて、アプリの開発や概論的なものよりも具体的・実践的な内容を期待すると報告があった。

5 講話「新しい時代の特別支援教育の在り方について」

（1）基本的な考え方と障害のある子供の学びの場の整備、連携強化について

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官　加藤　典子　様

＜特別支援教育の進展に向けての基本的な考え方＞　特別支援教育の推進・充実から「進展」の段階へと更に進めた取組としていく。高等学校での通級指導が４年目を迎える。障害に対する支援は当たり前、多様性を認め合い、障害の有無に関わらず、誰もが共生社会の一員として活躍できるための配慮、教員の多様性の理解の共有化が大切である。

◇校内支援体制の整備　基礎的環境整備、合理的配慮の提供がキーワード。校内支援委員会の運用には特別支援教育コーディネーターの役割が大きく、計画的な人材育成も期待したい。学びのユニバーサルデザインの考え方を基礎的環境整備として学校経営の方針に位置付ける。多様性を保証することは、学びがカスタマイズできることである。指導力のある教員はこうした支援を無意識に実践している。校長は、その無意識な支援を意識付け、学校で共有化することが基礎的環境整備としても大切になってくる。

◇チェックリストの活用　全ての児童に行う基礎的環境整備となる客観的なデータと融合して指導支援をすることが大切であり、教育支援の手引きも参考としてほしい。

◇校種間の連携　校種間の連携に基づく確かな引継ぎをすることが何より大切である。中央教育審議会初等中等教育分科会の「幼児教育と小学校教育のかけはし特別委員会」の情報も注目してほしい。

（2）特別支援教育を担う教師の専門性向上と新しい教員研修等について

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所情報・支援部学校教育支援・連携担当総括研究員　滑川　典宏　様

◇全国調査の実施　学習指導要領に基づく教育課程の編成に係る実態調査（小中特別支援学級設置校各600校の抽出調査）をお願いする。

◇特別支援教育を担う教師の専門性向上　特別支援教育に関する専門性が全ての教師に求められている一方で、教育課程編成や日々の指導での課題が生まれている。多人数・実態差への対応は、経験ある教員ほど困りが増える困りの連鎖が生まれている。具体的・実践的な内容のセミナーを求めている現場の期待に応えたい。特別支援教育の専門性の向上を図るために、教育的ニーズのある子供を知ろうとすることが大切である。子供の見方が子供の味方につながっているかを振り返ってほしい。特別支援学級や通級による指導の担当者が大切にしていることを知ることも大切である。例えば、20年前に出された言語障害教育担当教員の指導観（言語障害の改善や言語能力の向上、子供の全体像・個性・内面等に着目、コミュニケーションを豊かにする、子供の生き生きとした暮らしの実現）は、今でも通用する。また、全難言協では３つの専門性「かかわる力」「つながる力」「専門的な知識や技能」を挙げている。穏やかに温かい関係をつくることができることも専門性である。障害をみるのではなく、その子供を見ることが大事、子供と過ごすことを楽しんでほしい。校長自ら応援団として努めてほしい。10月岩手大会の資料、特総研のHP・LINEも利用してほしい。

6 連絡事項　会計部長　齋藤　瑞穂

分担金の納入に感謝。令和2・3年度のブロック会費は、現金書留で送付する。

7 閉会の言葉　副会長　田野　信哉

オンラインでも顔を見ながら交流できてうれしい。課題意識を共有して進めていきたい。御講話いただいた加藤様、滑川様には支援に生かせる指針をいただき感謝申し上げる。

記録：青田佳寿紀（札幌市立手稲山口小）

令和３年度全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会
第58回全国研究協議会岩手大会　報告

平成９年の第34回大会以来となるみちのく岩手の地で開催として準備を進めてきた、第58回全国研究協議会は、全国の新型コロナウイルス感染症の終息が見えないため、令和３年４月には、全国の皆様の参集による大会から、誌上開催と岩手県内の会員に限定した代替研修会へと変更いたしました。しかし、８月には岩手県内においても、多くの方が参集することが適わない感染状況となり、研究協議を中止するとともに、盛岡市内の会員と実行委員に限定し50名の参加の下に講演会のみの研修会として実施いたしました。

開催にあたりましては、御理解と御支援をいただきました、全特協会長　喜多好一様をはじめ、全国の関係者の皆様に、改めて厚く御礼申し上げます。

(1)　実践交流研修会

日時　令和３年９月14日　14:40～16:20

場所　アイーナ(いわて県民情報交流センター)
　　小田島組ホール

講演　社会医療法人智徳会理事長　智田文徳　氏
　　「『発達』からみた　こころの臨床」

智田氏からは、これまで精神科医として携わってこられた実例をもとに、特別な配慮が必要な児童生徒の「発達特性とこころ」についてお話しをいただきました。「教育は希望の処方」であるなど、子供の治療には教育機関との連携が欠かせない、教育の果たす役割は大きいなど多くの御期待と励ましの御言葉をいただきました。参加者からは、「自校の事例と重ねながらお話をお聞きでき、大変参考になった。」などの御感想をいただきました。

(2)　誌上開催

大会研究紀要には、「特別支援教育の校内支援体制の充実を図る学校経営」「特別支援教育の推進を担う人材の育成を図る学校経営」「関係機関との連携により特別支援教育の充実を図る学校経営」の３つの柱に対し、青森県、宮城県、そして、岩手県の６つの実践をいただきました。この実践に対し、文部科学省初等中等局特別支援教育課特別支援教育調査官　加藤典子様からは、「障害のある児童生徒を含め全ての児童生徒の可能性を引き出すための教育の基盤となっているもの」などの御講評をいただき、学校経営における特別支援教育の取組の重要性について御示唆いただきました。また、国立特別支援教育総合研究所総括研究員　滑川典宏様からは、「『自分事にしていく体制づくり』『教職員との関係性の構築』『連携のイメージ図』等の課題解決に向けた具体的な提案である。」との、評価をいただきました。

誌上には、智田先生の御講演の記録を掲載するとともに、その様子を記録したDVD、そして、全国の皆様をお迎えするために県内の特別支援学級児童生徒が作成したストラップやコースターなどの大会記念品も添えて、お届けいたします。

（第58回全国研究協議会岩手大会実行委員長　小山田秀次）